

# 第6回 平取ダム地域文化保全対策検討会

## 議 事 要 旨

日 時：平成20年3月15日（土）

場 所：沙流川歴史館 レクチャーホール

北海道開発局室蘭開発建設部

沙流川ダム建設事業所

## 第6回平取ダム地域文化保全対策検討会 議事要旨

日 時： 平成20年3月15日（土）14：00～16：00

場 所： 沙流川歴史館 レクチャーホール（北海道沙流郡平取町二風谷）

出席者：

委員	辻井達一	財団法人北海道環境財団理事長〔座長〕
	稲原敬三	平取町議会議長
	木幡サチ子	北海道ウタリ協会平取支部／平取アイヌ文化保存会理事
	木村英彦	社団法人北海道ウタリ協会平取支部副支部長
	斉藤憲章	取町教育委員会教育長
	常本照樹	北海道大学大学院法学研究科教授
	鍋澤保	社団法人北海道ウタリ協会平取支部副支部長
	西島達夫	社団法人北海道ウタリ協会平取支部副支部長

配布資料：

- ・第6回平取ダム地域文化保全対策検討会 会議次第
- ・資料－1 第5回平取ダム地域文化保全対策検討会 議事要旨（案）
- ・資料－2 有用植物の保全対策に関わる勉強会のふりかえり
- ・資料－3－1 （1）植物の保全対策に係る検討
- ・資料－3－2 〔有用植物保全対策に関する具体的手順フロー（案）〕  
有用植物の全体リスト（木本類・草本類）
- ・資料－3－3 代表的な保全対象の木本類・草本類（代表リスト）について
- ・資料－3－4 ②有用植物保全モデル地区（案）の選定について  
有用植物保全モデル地区の位置図（案）
- ・資料－3－5 2）保全管理計画（案）の想定について
- ・参考資料 〔半栽培の方法〕
- ・資料－4 （2）生活文化の保全対策に係る検討  
川洲畑栽培実証試験候補地の位置図（案）
- ・参考資料 〔半栽培的管理について〕
- ・資料－5 栽培実験について（案）
- ・参考資料 栽培技術蓄積のための留意点等
- ・第6回平取ダム地域文化保全対策検討会 座席図

議 事：

1. 開 会
2. 第5回 平取ダム地域文化保全対策検討会 議事要旨（案） 【資料－1】
3. 調査結果の報告 【パワーポイント】
  - （1）平取ダム地域文化調査業務の概要
4. 第5回検討会以降の関連事項の報告
  - （1）平取ダム付替道路工事に係るカムイノミの実施について 【パワーポイント】
  - （2）平取ダム付替道路工事区間における植物移植の実施について 【パワーポイント】
  - （3）有用植物の保全対策に関わる勉強会のふりかえり 【資料－2】
5. 協 議
  - （1）植物保全対策に係る検討 【資料－3】
  - （2）生活文化の保全対策に係る検討 【資料－4】
  - （3）栽培実験について（案） 【資料－5】
6. その他
7. 閉 会

## 1. 開 会

**事務局**：それでは定刻を若干過ぎましたが、ただ今より平取ダム地域文化保全対策検討会を開催したいと思います。議題に入るまでの間、司会を務めさせていただきます。よろしく願いいたします。なお、最初に会場の皆様をお願いがございます。携帯電話につきましては、電源をお切りいただくか、マナーモードの設定をよろしく願いいたします。なお、本日の検討会につきましては、中道委員、桜井委員からご都合が悪いとのことで欠席とのご連絡をいただいております。また、川奈野委員、鍋澤委員につきましては若干遅れが出ているとの連絡をいただいております。それでは早速議題に入りますので、辻井座長に進行をお願いいたします。

**座 長**：皆さん、土曜日にもかかわらずご出席ありがとうございます。早速議事に入ろうかと思いますが、最初に大まかなスケジュールを申しあげておくことにします。お手もとに議事次第がありますけれども、前回の第5回検討会議事要旨の確認をしていただきたいと思います。その次に平取町調査班が実施した調査結果の報告をしていただこうと思います。次に第5回検討会以降の関連事項についての報告が幾つかあります。一つ目は付替道路工事に関するカムイノミについてです。これはご参加いただいた方も多いかと思います。二つ目は付替道路工事区間における植物の移植についてです。これも一部出席、ご覧になった方もいるかと思います。三つ目は有用植物の保全対策に関する勉強会についてです。以上三つの報告がございます。そして、それぞれを分けて協議をしていただこうと考えております。それで最初の議題に戻りますが、一つ目の議題として、第5回平取ダム地域文化保全対策検討会議事録の確認を事務局の方からお願いしたいと思います。

## 2. 第5回平取ダム地域文化保全対策議事要旨（案）の確認【資料－2】

### \*事務局より、資料－2「第5回平取ダム地域文化保全対策議事要旨（案）」について説明

**座 長**：議事要旨の確認なのですが、修正・訂正がございましたら、おっしゃっていただきたいと思います。これはお目通しいただいていると思います。よろしいですか。では議事要旨はこのままでよろしいですね。特に協議がなければ確定ということにしたいと思います。どうもありがとうございました。

それでは、次第の3番目の調査結果の報告に入りたいと思います。これはさっき申しあげたとおり、平取町調査班のほうから説明をお願いします。

## 3. 調査結果の報告

### ◆平取ダム地域文化調査業務の概要【パワーポイント】

### \*調査班作業主任（以下、作業主任）吉原主幹（平取町文化財課）より、「平取ダム地域文化調査業務の概要」について説明

**座 長**：はい、どうもありがとうございました。それでは今の調査班の報告についてですが、これについて何かご質問、ご意見ありましたら承りたいと思います。何かありますか。よろしいですか。もしなければ、また後で全体の質問のときに承りたいと思います。それでは先に進ませていただきます。作業

主任、どうもありがとうございました。調査班の方、どうもありがとうございました。

次に第5回検討会以降の関連事項の報告ということで、(1)(2)を続けて事務局から説明をお願いします。

#### 4. 第5回検討会以降の関連事項の報告

(1) 平取ダム付替道路工事に係るカムイノミの実施について【パワーポイント】

(2) 平取ダム付替道路工事における植物移植の実施について【パワーポイント】

**\*事務局より、(1)「平取ダム付替道路工事に係るカムイノミの実施について」、(2)「平取ダム付替道路工事における植物移植の実施について」について説明**

座長：2つまとめて報告をしていただきました。何かご質問、ご意見ございますか。移植先の切り株に番号などは記してあるのですか。

事務局：ナンバリングしてあります。今後観察していく予定です。

座長：植えた平面図のようなものは作成してありますか。

事務局：はい、あります。

座長：では、行けば分かりますね。ほかにご質問ありませんか。それではどうもありがとうございました。

それでは(3)の勉強会についてです。お願いします。

(3) 有用植物の保全対策に関わる勉強会のふりかえり【資料-2】

**\*事務局より、(3)資料-2「有用植物の保全対策に関わる勉強会のふりかえり」について説明**

座長：はい。いわゆる勉強会をやりました、その時の様子について報告がありました。何か加えてありましたら伺いますが、どうですか。検討会と別に、細かい話を含めて話せる機会があったほうが良いと思って勉強会をしました。私としてはこれからも勉強会のようなことはできるだけ続けると良いと思います。もう少し項目を絞っていけば、理解も深まって良いと思います。これからもそういう機会を作っていきたいと思います。それではご意見がなければ、休憩をとって協議に入りたいと思います。3時再開ということでよろしいでしょうか。それでは3時再開ということで。

(休憩)

座長：3時定刻を少し過ぎましたので、再開したいと思います。それでこれから議題に移ります。植物の保全対策に係る検討ということで、事務局から説明をしてもらって始めようと思います。

## 5. 協 議

### (1) 植物保全対策に係る検討【資料-3】

#### \* 事務局より、(1) 資料-3「植物保全対策に係る検討」について説明

座 長：ありがとうございました。今の説明ですが、項目も多く、地図、表も多くて分かりにくかったと思います。ご意見なりご質問あれば承ります。

●：我々は一度ダム事業所からの説明を受けているのですが、先に聞いたのですが、試験湛水の期間とかは説明したほうが良いのではないですか。何ヶ月間か、冬の間だと記憶しているのですが。

事務局：今のところ想定ですが、夏場の出水期には試験湛水はできませんので、7、8、9月が終わりますして10月頃からスタートすることは間違いないと思います。10月から始まって翌年3月か融雪が終わる頃まで水を溜めることになっています。その間ですが、標高の低い位置は長い時間、水に浸かっているということです。高い所は一月くらいと考えています。ですから、広葉樹であれば耐水性の高いものがありますが、春先の芽吹く時期には厳しいと考えています。試験湛水というのは、ダムの機能がきちんとなされているか、いわゆるダムの性能の試験です。最大限の水位の上昇は有用植物保全モデル地区の位置図 12 ページに貯水池内の絵が描いてあるのですが、左下に凡例があります。この紫（青）色のライン、サーチャージ水位まで水位を上昇させます。このサーチャージは洪水調整する範囲でありますので、実際の運用に入った場合は計画規模の洪水がくればということになってはいますが、ただダム工事の際はこのラインまで水位を上げなければいけない。そうしたときに図面の中にある紫（青）色のラインまで水位が来るという状況になっています。

●：性能試験のときは何ヶ月間、サーチャージまで水位を上げるのですか。

事務局：サーチャージまで到達しましたら 24 時間それを保って、一日 1m 水位を下げっていくのが一般的です。ですがそこに達するまでは徐々に水位が上がっていきますので、長い時間を要する場合があります。その年々の流入量によって違いはありますが。

座 長：よろしいですか。ほかにありませんか。〇〇委員どうぞ。

●：過日ダム事業所との打合せで話は伺っていますが、確認の意味でお伺いします。展示ですが、どの範囲を示すのか、標本室のようなところでそれを示すのか、それとも全く現地のものを展示とするのかが一点。それとモデル地区と呼ばれるのは、サーチャージ水位の状態では木本であろうと、草本であろうと、水生であろうと、乾地を好むもの、湿地を好むものがありますが、季節的な植生の状況は変わるとおもいます。植生のモデルとありますが、単にモデル地区だけの表現でいいのか。モデル地区 A、B というような、季節ごとに植生が変化すると思えます。その 2 点をお伺いします。

**事務局**：一点目の展示ですが、先ほどのご説明した中で一つは量を確保する、もう一つは種類を確保する。種類の確保というのは、先ほど説明にありました全体リストを参考にしながら、現地でいろいろな種を確保していく。例えば平取ダムのあの辺りに行けば、今までアイヌ文化に利用されていた種類を見られるというところを作っていくということを提案させていただいたわけです。もう一つ、ダムができた場合、現地の状況は変わってまいります。例えば、N-03 というような場所、この敷地の中に常時満水位が含まれています。常時満水は年に一度必ず水に浸かります。つまり常時満水というのは夏場と冬場で水がついたり、つかなかったりする場所です。N-03、特に赤い線（常時満水位）の下については、植生が変化するといいますか、今より湿地に適した状況になると思います。

**座 長**：〇〇委員よろしいですか。

●：はい。それでは最初に戻りますけれども、展示というのは現地にあるものを確認するだけですか。

**座 長**：それでは足りないと思います。ですから、他所から工事区間の中から持ってくることも含まれている。現にあるものだけではないです。簡単に言いますと、ここにある多様な木本・草本の保全モデル地区－2、3は標本園、植物園というものと考えていいと思います。どうのように並べるかというのは先の事ですが。モデル地区－1は、いろんなものに使えるものが植わると考えていいのではないのでしょうか。

●：基本的にはそこに自生しているものを考えるのですけれども、さらには足りないものは補うという考え方でいいのですね。

**座 長**：ただ、どう植えるかはまだ先のことです。真っ直ぐ並べるというのでは面白くないから、自然に近い形に並べるのではないのでしょうか。

●：わかりました。それとモデル地区のことですが、これはサーチャージで植生も随分変わるかと思いますが、それはここで結論を出す段階ではないのですね。

**座 長**：変わるのを予測して植え方も変えなければならぬかと思います。水位が変わることを予測しながら、湿ったところには湿ったものを植え、水に浸からないところはそれなりの植物を植える。どこに何をということはまだ決まってないです。

●：わかりました。

**事務局**：そのために今後、現地の詳細を把握するための調査を行っていきたいと思います。

**座 長**：〇〇委員がご心配するように、この地図では表せないところがあると思うのです。でこぼこしているとか、実際はどこまで浸かるのか。実際はもっと大きな図面で作らなければならないと思うのです。

**事務局**：実施にあたっては現地の詳細な情報を盛り込んでいく必要があると思います。

**座長**：ほかにいかがでしょうか。今の植え込みですが、資料-3-2のところ今の話の中味、主として展示を目的、主として増殖を目的というのが二つあります。増殖のほうには増やさなければならないものもある。ですから右の方は、種類はある程度限られるけれども量はカバーしなければならないと考えていいと思います。左の方、主として展示を目的のほうは、主として、量は少ないかもしれないけれどもいろいろなものが見られるという考えです。ただし、その下に不足分というのがあります。今、〇〇委員がおっしゃったようにその場所だけではないから、他所からも持ってきて足さなければならないことがある。これは事務局、調査班に聞いたほうがよいのかもしれないが、右の上のほうに「平取ダム工事箇所の有用植物」、モデル地区ではないかもしれないけれども、良いものがあればそこから持ってくるよという考えではないですか。

**事務局**：はい。まさに今年度に行いました工事箇所については木も切らなければならない、草も刈らなければならないことがある。保全モデル地区で足りないものは積極的に持ってくるよということですか。

**座長**：聞きたいのは「平取ダム工事箇所」の部分だけ破線で囲っている。これは平取ダム工事箇所だけではなく、他所からも持ってくることを考えて破線にしているのですか。

**事務局**：ひょっとしたら道路工事箇所だけでは賄いきれない可能性があるということですか。できるだけ現存植物を活用していきたいと思っています。苗木、種取りをしていきたいと思っています。

**座長**：そういう意味ですか。わかりました。私が申しあげたいのは、いろんな種類を集めようとするところの中だけでいいかはわからない、そう解釈していいですね。破線で囲ってあるのは芸が細かい。ほかに何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。このような方針でやっていきたいということ。代替モデル地区も大まかに楕円で囲ってあるだけです。現場の地形とあわせて考えなければなりません。細かなこともあるでしょうから、現場をさらに細かく調査をして大縮尺の地図を作って、現場にどういうものがあるか確かめてというのが次の段階になると思います。よろしいですか。ありがとうございました。

次にもう一つあります。生活文化の保全対策に係る検討、これをお願いします。

## **(2) 生活文化の保全対策に係る検討【資料-4】**

### **\* 事務局より、(2) 資料-4「生活文化の保全対策に係る検討」について説明**

**座長**：生活文化の保全対策は、この川洲畑だけでよいのですか。

**事務局**：本日のこちらの資料は以上です。

座 長：今のようですが、コポンチカルについてです。今は試験地の案ということで出ているので、今年も一回歩いてということですが、平取町調査班が踏査してくれるのですか。

事務局：候補地 7 箇所を歩いてもらいます。雪解けの頃にと考えています。

座 長：雪解けというと、もうすぐですが。

事務局：調査班に踏査していただく 7 箇所は、春の融雪出水が終わった頃に泥が溜まっているところを見つけて、何箇所かで試験をと考えています。

座 長：わかりました。これについて何かご意見あれば承ります。

●：川洲畑ですが、もう 3 月の中旬です。来月再来月になるともう考えなければいけない。ヒエやアワをとということですので、ダム事業所が言われるとおりにやられるということになると、〇〇委員など年齢的に体験者だと思うのです。これは戦前のことですが、私は祖母が川洲畑で栽培したものを遊び気分でやっていたものです。60 何年前ですが、収穫の方法は伝統文化そのもので、祖母と貝殻を使って収穫をしました。収穫の方法についてダム事業所はどのように考えられていますか。

事務局：まさに川洲畑でやられていたことを、実証試験を通して伝えていく、残していくということは重要だと考えています。今お話があった収穫の方法を伝統的なやり方でご指導いただきながら収穫をしていくことが重要だと思います。

●：このようなことは〇〇委員と共同でやっていくことが重要なことだと思います。

●：確かに今の話はおっしゃるとおりです。いつの年代のものかということも難しいと思います。一説にはアイヌ民族には鉄器も入っていた。しかし、シャクシャインの蜂起で鉄製の物が取り上げられた結果、一時的に農法が衰退したということもある。その辺は私らでも両方の方向で検討していきたいと思います。

座 長：わかりました。ちなみに白老では、川洲畑ではないですが、普通の畑でキビとかヒエを植えて、実際にピパで収穫をしました。そのようなことも考えていいのではないですか。

●：そうですね。考えていきましょう。

座 長：ほかにいかがでしょうか。

●：調査班で今年ダムの敷地内でいくらか植えたということが調査作業主任より出ていました。そのときにシカの食害についてはどうでしょうか。



作業主任：シカの食害は心配されましたが、思ったほどではなかった。これは、たまたまだったように思います。やられれば一瞬ですので、収量を確保しようというときには対策が必要かと思ひます。

●：それで半栽培ですが、植えた後は巡回だけ。これは話にも聞いていることですが、この前、ダム事業所との打合せでも言ったのですが、半栽培をしていたところの近くには人が住んでいたと思うのです。今は人がいないところに植える。人がいるところはイヌもいる。昔は放し飼いにしていた、そこは広い範囲でシカが来ないのです。自分の本家には川の対岸にも畑があるのですが、そこにはシカも寄り付かない。

座長：いまの自宅の近くですか。

●：違います。いまダムができるところの近くです。そういうところも、昔はイヌを放し飼いにしていたから害もなかった。この場合はそのようなことがないのでシカの出入りがしやすい。そういうことも考えて柵で囲ってシカが入れないようにする。二つのやり方を考えても良いのではないかと思う。

座長：はい。全部食べられてしまったら話にならないです。わかりました。ほかはどうですか。

●：はい。いまはシカが凶々しくなつた。私も橋の下にイナキビを植えたりしました。スズメも寄り付かないので良いイナキビが穫れた。いまは七班の橋の下も、橋が流れてなくなつてしまつた。そのときは本当に良いのが穫れた。今、私はハウスの横に2反くらいイナキビを植えています。去年はひどい目に会つた。シカが10頭くらい列になつてやってくる。まだ穂の出ていないものを踏み潰された。穂が出たがスズメがひどい。それで手伝ってもらつて網を張つた。私は何十年も田んぼをやっているが、シカが踏みつけてひどい。他のところは電牧を張っているが私には張れなかつたから、今年には張らないといけなひ。そのようなことで、収穫がしっかりできるのだろうか。収穫を得るには電牧を張らなければならぬ。そんなことになればダム事業所も大変ではないか。しかしこれも勉強のためだと思ひるので、私もお手伝いさせていただきます。ヒエでもイナキビでも川原は草が生えない。良いものは穫れないが、手はかからぬと思ひます。

座長：ほかにございますか。いろいろなことをやってみると思ひもかけないといひますか、やっぱりやられたかという話も出るかもしれません。本来は対策なしで、あるいは〇〇委員がおつしやつたようにここならシカが来ないというところを見つけた条件を活かしたものにするか、いろいろ考えなければいけません。実験的にやってみたいと思ひますのでよろしくお願ひします。ではこの方針でやってみましょう。

それではもう一つ、栽培実験についてです。資料-5です。ではこれについての説明をお願ひします。

### (3) 栽培実験について (案) 【資料-5】

\* 事務局より、(3) 資料-5 「栽培実験について (案)」について説明

**座長**：はい。これについてご質問ご意見があれば承ります。表のこれまでの栽培実証試験の中に対象種でコケイランがありますが、作業主任、これはどのような栽培をしたのですか。僕の聞きたいのはランというのは難しいし、そう簡単に増えるものではない。何をやられたのか教えて欲しいのですが。コケイランというのは、アイヌ語でミマコトウクと書いてあります。食用と薬用というところに丸がついています。何を食べたのだらうと。

**作業主任**：毎年移植はしていましたが、定着しているかどうかは。

**座長**：ラン科を食べるということはなかなかないのです。小さいものです。ランを食べるのは中国の南、広東でお茶にするというものはあるのですが、非常に贅沢なものです。そんなにきれいなものではない。

●：昔は食べた。ヌベがランの一種と聞いた。5月くらいだと思う。

**作業主任**：今年移植したのは活着しているのですが、それ以前に移植したのは不確かです。

**座長**：わかりました。珍しいと思ったので聞いたのです。ほかにございませんか。〇〇委員、最後に何かありませんか。

●：最後に何かあるわけではございませんが、今年度の調査班の調査は非常に詳細で、大変ご苦労されたと思います。大変結構なものだと思います。このとおりに進めていただければと思います。

**座長**：もしこのままなれば、具体的にモデル地区をどう組み立てていくかという次の段階に移していこうかと思えます。どうもありがとうございました。これで議題は消化したかと思えます。よろしければ、事務局にお返します。

## 6. その他

**事務局**：事務局では「6.その他」は特に用意しておりませんが、委員の方から何かございましたら。

●：調査室が今月の10日に終わっています。前回は日本グラウンドワーク協会がカバーして、その間の調査をしていただいたのですが、これから雪が解けて発芽したりと、いろいろ環境を調査するのに一定期間が空くのは望ましいことではないので、できれば空かないように調査をしていただきたいと思います。できれば通年で調査していただきたいと思います。それが一点です。それから常時満水位やサーチャージまで水に浸かるということは将来的な話なのですが、どう植物に影響を与えるか、どう変化をしていくかという確認は当然調査に入っていますね。その確認です。

**事務局**：調査のほうについては、春の植物を調査していかなければいけないと思えます。中味はつめているところです。漏れが無いようにと考えております。水位の検討ということにはきっちりと見定めていかなければならないと考えています。

委員の方は、ほかにありませんでしょうか。それでは本日の議題を全て消化したということで、沙流川ダム建設事業所の岡下より一言ご挨拶を述べさせていただきます。

## 7. 閉 会

所 長：検討会の終了にあたり、一言ご挨拶させていただきます。本日は座長をはじめ委員の方、お忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございました。前回の第5回検討会は11月と、それから4ヵ月近く間が空いてしまいましたが、その間に現地ではカムイノミや植物移植、付替道路工事着手など皆様の多大なるご理解とご協力により、また一つ前進したかと思えます。本日は、植物や生活文化の保全対策、栽培実験についてご議論いただきました。頂いたご意見を踏まえて今後の取り組みにつなげていきたいと考えています。年度内の検討会はこれが最後になりますが、次年度も引き続き委員の方々の意見を伺いながら、とりまとめを図っていきたいと思えます。どうかよろしく願いいたします。本日は熱心なご議論、誠にありがとうございました。